

## 令和2年度 学校経営方針

### 1. 校訓

真理・理想・進取

### 2. 教育目標（校訓に基づき策定（すべての基礎となる心身の健全さを付記））

- ① 真理の探究に向け、協働的に粘り強く挑戦する人の育成
- ② 理想を追求し、自己を高め、地域社会に貢献する人の育成
- ③ 進取の気象をもち、主体的、意欲的に行動する人の育成
- ④ 心身ともに健康、情操豊かで、他人を思いやる人の育成

### 3. 行動指針（生徒・教職員における共通の行動指針とする）

- ① 真理の探究に向け、協働的に粘り強く挑戦する
- ② 理想を追求し、自己を高め、地域社会に貢献する
- ③ 進取の気象をもち、主体的、意欲的に行動する
- ④ 心身ともに健康、情操豊かで、他人を思いやる

### 4. 目指したい人材像（生徒・教職員がともに目指す人材像とする）

グローバル人材

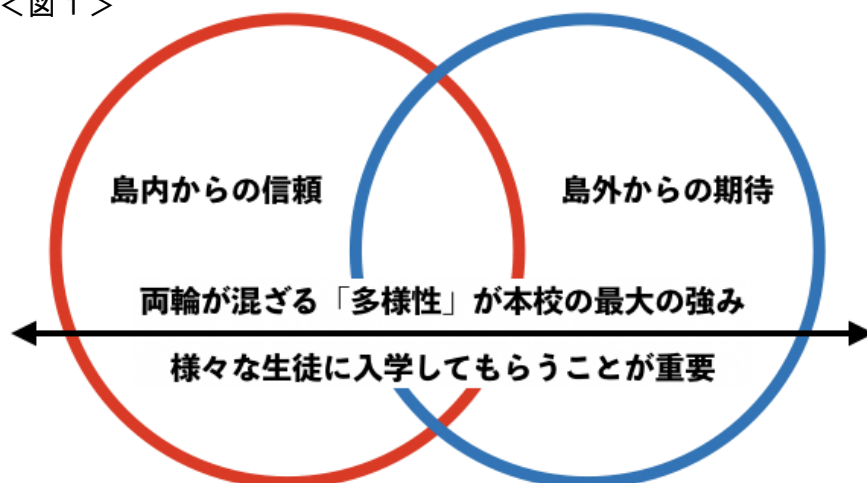
… 広い視野で考えながら、足元から実践していける人材であり、どこにいてもふるさとを思いながら、自分自身や地域の特性を活かして活躍できる人材

### 5. 本校が置かれている現状

魅力化プロジェクトに取り組み始めてから11年が経ち、直近での統廃合の危機は免れたものの、新たな課題に直面している。魅力化を今後も続けていく本校の生命線は、2クラスの維持と生徒確保である。

そのためには、下図1で言うところの「島内からの信頼」に応えることと、「島外からの期待」に応えることの両輪が駆動しなければ達成することはできない。両輪同士は、場合によっては信念対立を起こす可能性も考えられ、取組には胆大心小さが求められる。また、どちらか一方に絞ることは即ち1クラスへの後退につながるため、多様性を最大限活かすことによる両輪駆動を目指すことが本校の価値を最大化することにつながると思われる。そしてそのためには両輪から様々な生徒に入学してもらうことが重要である。

<図1>



## 6. 令和2年度 重点施策

上記5も踏まえて、令和2年度は下記を学校経営における重点施策とする。

経営目標		目的および概要	
島内からの信頼	1	<p>&lt;教務・教頭&gt; 授業力の向上を目指し、「授業魅力化プロジェクト」を始動する。</p>	<p>人事異動が多い組織状況を鑑み、組織で授業力を高めていく方法を見出し、全体の底上げを図ることで生徒の学力ゾーンをひとつずつ上げることを目指す。</p>
	2	<p>&lt;総務&gt; 教員間・生徒間の三町村小中高連携を推進し、交流機会を増やす。</p>	<p>高校が主催・主導する小中高校間での交流を複数回実施することで相互理解を深め、結果として70%以上の島内中学生が本校を志願する状態をつくる。</p>
共通	3	<p>&lt;キャリア&gt; 生徒自身が「社会に開かれた」視点で多面的に進路を考えるきっかけを創出する。</p>	<p>各学年部との連携を密にし、隠岐國学習センターとの連携をより強固なものとすることによって生徒・保護者の進路指導に係る納得度が80%を超える状態を目指す。</p>
島外からの期待	4	<p>&lt;主幹教諭&gt; 他校には真似できない日本随一の探究学習を実践しながら、生徒が島に貢献できるレベルまで引き上げる。</p>	<p>学校教育目標に基づく資質・能力を、各教科でどのように育成していくのかを一覧表化する。また、探究学習と各教科とのつながりを明確に意識し、カリキュラム・マネジメントの成果として授業満足度が80%を超える状態を目指す。</p>
	5	<p>&lt;学校経営補佐官&gt; 家督会と連携し、若手卒業生のコミュニティ化を図る。</p>	<p>卒業生がいつでも帰れるコミュニティや卒業生・保護者が家督会を応援できる仕組みをつくる。また、生徒がいつでも頼れる若手の先輩ネットワークを組織するため、同窓会を全国各地で複数回実施する。</p>
環境整備	6	<p>&lt;総務・校長&gt; 会議体のあり方とやり方を抜本的に見直し、学校経営を教職員が本気で探究できる場をつくる。</p>	<p>校内で実施するすべての会議体について見直しを図り、生産性の高い場とするだけでなく、教職員が正解のない課題や前例のない挑戦を探究できる場とする。</p>
	7	<p>&lt;生徒部&gt; 部活動における生徒の主体的な取組を支援しながら活動の充実を図る。</p>	<p>部活動加入率が90%を超えるように、あらゆる機会を通じて部活動への加入を奨励し、活動環境を整える。また、本校ホームページで「部活動の魅力化」について積極的に発信する。</p>

## 7. 重点施策に係る評価

年度当初にスケジュールおよび実施案を各部で策定し、それに基づき実施状況を順次運営委員会にて確認する。また、年度末に振り返りを実施し、その結果を職員会議で公表して、次年度の学校経営目標に反映するなど透明性の高い学校経営を目指す。